

2024年度事業計画(案)

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

2024.5.30

とちぎユースサポーターズネットワークの目的(定款より)

「この法人は、社会貢献の志を持つ若者に対して力と行動を高める事業を通じて、地域社会の課題解決や活性化を加速させていくことを目的とする。そして社会の担い手であり、新たな価値を創造していく、希望と自信に満ちた若者を輩出していくことで、よりよい社会づくりに寄与していく。」

⇒ユースのビジョン:それぞれの強みや違いを活かし、つながり合い、主体的に未来を創る行動にあふれるいきいきとした社会

⇒ユースのミッション:若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速する

・ 以上を整理すると、ユースは以下のような取り組みをする組織

○ターゲット:社会貢献の志を持つ若者

○行う事業:地域社会の課題解決や活性化を目指し若者の力と行動を高める事業(若者のスキルアップ、外への関心を育む、プロジェクト支援等)

○最終ゴール:主体的に行動し、新たな価値を創造していく若者を育む

2023-2026期 中期計画基本方針

①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実

(若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデルの確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり

→簡単にいうと、ユース中心で若者を育むのではなく地域全体で育む。ユースは、挑戦する若者が成長する舞台をつくり、その舞台に登場する若者と応援する支援者を増やす役割を固め、若者が外(当会以外)でもまれて育まれるように。当会が外と繋がり、外を育み、連携し、挑戦する若者を育む。そして若者が地域を変えていく実態を各地で創り出していく。

2026.6の景色

当会スタッフ以外が、若者の挑戦支援に関わり、当会エリア以外でも、20代、30代の社会をよりよくしていく挑戦者が活躍している状態。(当会では各コーディネート機関を支える役割も検討)。

(ユースは若者と地域を変化させる(みんなが使える)インフラ的触媒)

2023.6-2026.6 中期計画

中期計画基本方針	重点的取組	2026.6の状態・景色
<p>①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実 (若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)</p>	<p>■若者が主体的に未来を創る行動をしている状態にするための支援機会の充実と深化 ◇明確なKPIの設定と出力数の増加 ◇社会活動を行いたい若者の掘り起こし ◇若者が参画できるプロジェクト数、参画する若者数の増加 ◇若者のプロジェクト支援(iDEANEXT、伴走支援) ◇コミュニティ形成と機能化(①若者社会接点コミュニティ、②本気育成支援コミュニティ) ◇支援者拡大と支援価値の可視化と実感の向上 ◇認定NPO法人の取得と民間企業からの支援</p>	<p>(外部)■仲間・情報・資金・応援者・ノウハウ・メンター等、社会全体から若者を応援するリソースが若者に届いている。その結果、若者の社会活動の始動、継続、発展している。 (内部)■事務局が介在するプログラムで育むモデルに加えて、コミュニティ(双発)で育むモデルを実施している。プログラム開発運営、伴走支援者の役割に加えて、コミュニティ運営支援(メンバー拡大、機能価値向上、ネットワーク構築)ができるようになりはじめている。</p>
<p>②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。</p>	<p>■内部体制の見直し等 ◇事業フローの確立、蓄積的ビジネスモデルへの転換への検討 ◇ブランディング強化 ◇組織力強化、ガバナンスの強化 ◇会員参画、コミュニティ化支援 ◇スタッフ育成(プロジェクトマネジメント、インキュベート、コーディネート、ファシリテートレベルの引き上げ) ◇チームマインドの統一・醸成 ■外部コーディネート機関や人材の育成</p>	<p>(外部)■当会に関わる若者、支援者、県内コーディネーターとのネットワークが密になり、新しい社会的要請(ニーズ)に対しても対応できる。 (内部)■社内の就労条件や環境を職員それぞれが安心できる水準に引き上げ、スタッフを拡充することができている。 (外部)■「若者と社会をより良くできそう」と期待し、若者の成長にコミットしながら、若者とともに価値創造できる組織が増えている</p>
<p>③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり</p>	<p>■“ソーシャルインパクト”のための“共創”機会の創出の検討 ◇ソーシャルデザインイニシアティブプログラム(仮)の実施</p>	<p>■本気の若き挑戦者と支援者が集うコミュニティのメンバーが広がり、日常的に盛んなコミュニケーションが行われている。</p>

① 挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実

(若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)

■ 若者が主体的に未来を創る行動をしている状態にするための支援機会の充実と深化

重点的取組	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)	2024.4現在
◇明確なKPIの設定と出力数の増加	各事業の目標の数値化を図る		
◇社会活動を行いたい若者の掘り起こし	1. あしかもメディアの充実	Pv数 年間360,000pv (63,397pv) Twitter フォロワー数 2,000(857) Instagram 5,000(868)	⇒2024.4 pv91,326(前年比+27,929) X960(+103)、Instagram 1042(+174)
	2. とちぎ若者未来創造会議の実施と拡充		4年間休止していた「とちぎ学生未来創造会議」を母体に2023年度に再度始動することができた。
	3. 県内教育機関で実践者の講義機会拡充	県内高校(75校)の半数35校、全大学(10校)で講義	⇒(県央)文星芸術大学、宇都宮共和大、県総合教育センター、宇河内地区教育事務所、芳賀教育事務所、河内地区連合自治会(県北)野崎中学校、小林中、(県外)鉾田高校(茨城県)、茨城県鹿行生涯学習センター、水戸生涯学習センター、三重県地域振興局、新潟県生涯学習課、群馬県社会福祉業議会、千葉県県民生活課 等8か所で実施
	4. 他地域でのコーディネート機関の育成、連携	他団体育成・連携実績5件	NPO法人青二才の創設、NPO合宿(えんがお、トチギ環境未来基地、青二才、YMCA、そらいろコアラ、ユース)の始動
◇若者が参画できるプロジェクト数、参画する若者数の増加	1. 若者と共にソーシャルプロジェクトを実施	プログラム提供者数20,000人	プログラム提供者数4881人(-753名)うち、133名の大学生と個別コミュニケーション(LINE,FB)をはかることができている(若者コミュニケーションリスト登録 ※内部資料)
	2. 若者コミュニティの運営、拡充		若者コミュニティ「よりも」始動(30名の様々な大学生で構成)
	3. 若者と地域/企業/団体のコーディネート事業		WORKTRIP(オニックスジャパン)や地域づくりインターン等の取り組みの実施

①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実

(若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)

■若者が主体的に未来を創る行動をしている状態にするための支援機会の充実と深化

重点的取組	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)	2024.4現在
◇若者のプロジェクト支援 (iDEANEXT、伴走支援)	1. iDEA→NEXTコミュニティの機能拡充		4件(Roots、noba、科学ラボ、もしもプロジェクト)のインキュベートと卒業生コミュニティへの接続
	2. 若者コミュニティの機能化		「ユースインターン」(5名)、「個別LINE案内」(133名)、「よりも」(30名)の実施
	3. スタッフの伴走支援力の強化	伴走プロジェクト実績延べ40件	みやプロ(5チーム)、ミライらぼ(7チーム)、iDEANEXT(4チーム)、等16件の伴走支援を実施。
	4. 外部メンターの確保(リスト化)、協力の実施	メンターとの協働支援実績0件	未着手
◇コミュニティ形成と機能化	1. 若者コミュニティ(ユースチャレンジコミュニティ)	コミュニティ構成人数200(0)	「よりも」始動、3月末時点30人で構成
	2. コーディネーターコミュニティ(とちぎ若者未来創造会議)	コミュニティ構成機関数20(0)	とちぎ若者未来創造会議始動、12機関18人で構成
	3. 挑戦支援コミュニティ(ソーシャルデザインイニシアティブ)	コミュニティ構成人数200(0)	NPO合宿を通じて、関係機関との合意形成を実施。現在計画中。
◇支援者拡大と支援価値の可視化と実感の向上	1. マンスリーサポーター、メンター登録、活動支援金の提供の仕組み化、獲得活動	マンスリーサポーター 150人 登録メンター 50人	<ul style="list-style-type: none"> ・2024.4 マンスリーサポーター9名 ・登録メンターの構想・オペレーションを組み立てられず、動き無し。
	2. ユースチャレンジ基金(仮)の設置と運営開始。情報・資金・応援者・ノウハウ・メンターの仕組化、リソースをiDEANEXTや若者コミュニティへ投下	ユースチャレンジ基金収入 年間200万 支援実績 8件 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・iDEANEXT以外のミライらぼ7件、みやプロ4件など委託事業の中に活動支援金を導入し提供を実施。 ・独自にユースチャレンジ基金については、構造・オペレーションを組み立てられず、動き無し。
	3. ソーシャルデザインイニシアティブのコミュニティの積極的機能化		検討準備中。
◇認定NPO法人の取得と民間企業からの支援		認定NPO法人の取得 企業からの協賛・寄付 200万円	2023年度 3000円以上の寄付者 183名 1,757,224円 2022年度 " 22名 509,344円 2年間平均 102名 > 認定NPO法人化要件 100名/年 2024年6月総会后、申請書類提出予定

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネイト団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■ 内部体制の見直し等

重点的取組	具体的なアクション	KPI 2026.3時点	2024.4現在
◇事業フローの確立、蓄積的ビジネスモデルへの転換への検討	マンスリーサポーターの積極的獲得、自主事業強化と事業モデル再構築の検討		寄付キャンペーンの実施。自主事業化の強化、事業モデル再構築は進められず。
◇ブランディング強化	ユースを外部にどう見せていきたいか整理。①若者、②会員・支援者、③クライアントやパートナー、それぞれへの認知メッセージを設定後、ユースの強み・できること・ノウハウ・育んだ若者・ターゲット等の分かりやすい言語化し、ホームページや寄付ページなどの反映し、積極的な情報発信強化を行う。		WEBサイトのリニューアルの実施。 ユースビジュアルイメージ冊子(寄付・支援者)募集冊子の完成・配布
◇組織力強化、ガバナンスの強化	情報発信強化：SNS、ホームページ、イベントレポート、事業報告→ソーシャルプロジェクトを実施した成果を発信		ユースの日常のレポートとして、Instagramを開始。 レポートHPをあしかも、オフィシャルサイトに掲載⇒今後、オフィシャルサイト内ブログに集約、またレポートライター(有料依頼)を活用し発信を検討
	プロジェクトマネジメントの強化(それぞれのメンバーがPMできるように)		スタッフそれぞれに(委託)事業をメイン担当し、マネジメントを実施。
	人員体制の拡充と職員能力の強化 →現在弱い：SNS戦略(マーケティング)・情報発信、デザイン、事務系。ノウハウ強化・職員育成→合宿等で意識の共有を図る。	スタッフ体制8人(現在6人)	スタッフ変更無し。
	プロボノの採用→プロボノを活かせる社内体制(仕様書作成、コミュニケーションツール、権限裁量の整理、意思決定プロセスの整理)、	プロボノ2人(現在0人)	プロボノの運用方針、手続きなど、整えられず実施できず。

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■ 内部体制の見直し等

重点的取組	具体的なアクション	KPI 2026.3時点	2024.4現在
◇会員参画、コミュニティ化支援	1. 事業進捗報告会の開催	計9回(年3回)開催	2回、計10人の参加。
	2. 会員の日常的コミュニケーションの仕組み化。現在オープンチャット機能を→スラックに移行+オンラインコミュニケーター担当の配置		実施できず、会員のニーズがあるか、また立ち上げだけでなく、継続的に活用される仕掛けや運用イメージが不十分。会員限定コミュニティへの案内できてない。会員への意見聴取が必要。
	3. ユースタイム(会員交流会)の開催	計12回(年4回)開催	1回、計10名の参加
	4.活動レポートの作成・送付	年1回	WEBに一部掲載したものの、レポートとしてまとめ、支援者に配布するなどはできなかった。取り組みの可視化は次年度の重点に。
	5.会員を増やす取り組みの実施	運営会員70名、賛助及びマンスリー会員200名	寄付等支援者募集への個別アタック、キャンペーンを実施 ⇒ 運営会員 前年度13名増の47名、賛助会員19名・組増の43名・組、マンスリーサポーターは新たに始まり、初年度人。

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■内部体制の見直し等

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点	2024.4現在
◇スタッフ育成(プロジェクトマネジメント、インキュベート、コーディネート、ファシリテートレベルの引き上げ)	1.若者との接し方、企業・行政との関わり方、社会人としての節度・マナー、コーディネーターとしてのマインド勉強		全体的に進めることができなかった。次年度、外部研修参加費の予算化 1人40,000円(旅費交通費込)を研修費として、コーディネーター、NPO、コーチング、ファシリテーション、などそれぞれがあった学びの機会を支援する。
	2.ボランティアコーディネーション・協働について勉強	iDEA Vco3級取る	
	3.ファンドレイジングについて勉強		
	4.課題解決力の強化(発見～解決までのプロセスを学ぶ)		
◇チームマインドの統一・醸成	1.事業の取捨選択の判断基準についての意思統一(受けない判断をどうするか)		スタッフと定期的な面談(1人当たり3回程度)を実施。 全体の方針については会議等は実施できず(個別には話しているが、組織的統一見解まではいっていない) 有給申請・管理システム(内部・手動)を導入の実施 健康診断の受診の積極的ススめと代表自らが健康診断を受診。
	2.中期計画を元にした事業の進捗確認を都度実施→自分達の作りたい未来はどのようなもので、現在その未来に向かってどれだけ進んでいるのかスタッフ全体の共有		
	3.バリューの策定		
	4.持続可能な働き方の実行(ちゃんと休む、代休・有給を取る、健康診断に行く)。現状一人で持つ事業が多く、変わりがきかない。一つの事業の利益を高めること、またマンスリーサポーターなど支えてくれる人を増やすこと	有給取得率70%以上 健康診断受診率100%	

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネイト団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■ 財政戦略

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点	2024.4現在
◇事業収入の増加	1. 単価の高付加価値化		対応ができなかった。
	2. 自主事業収入の増加		前年度比で、,639,884円増の11,917,914円に増加、財政比率は28%(前年度20%)
	3. スタッフそれぞれの生産性向上とプロジェクトマネジメント意識・レベルの向上		十分な対応ができず。
◇寄付収入の増加	1.認定NPO法人化に伴い、寄付戦略の策定		認定NPO法人申請予定、その後も継続的支援者確保・戦略について継続審議
	2.マンスリーサポーターの導入		実施。初年度15名の目標に対し、9名のマンスリーサポーターの獲得。
	3.会員、理事の拡散、協力		十分な対応ができず。
	4.NPO版ふるさと納税		宇都宮市のふるさと納税に仕組みを使い、募集したものの、新規の支援者・金額はなく、報告資の作成・提出が煩雑。
	5.単発寄付から継続寄付への展開	単発寄付 100万円/年 企業協賛300万/年	未実施。
	6. 企業協賛の積極的獲得、協賛しやすいコンテンツ開発 (SDGs、ESG、PR)、営業資料・営業力の強化		十分に対応できず。

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■外部コーディネート機関や人材の育成

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点	2024.4現在
◇外部コーディネート機関や人材の育成	1. 県内の支援機関が集い、支援ノウハウの共有、研修、事例発表の実施	3回実施(年1回)	NPO合宿で一部実施したものの、県域全体での動きにはできていない。
	2. 各地のコーディネーター育成のためのインターン受け入れ(将来のコーディネーターになりそうな学生や社会人をインターン生として受け入れる)	インターン受け入れ実績 45名	ユースインターン生として5名受け入れたものの、あしかもメディア事業に係るインターン生が4名で、全体に1名、コーディネーター養成としての受け入れはできなかった。
	3. 若者を必要としている現場(組織・エリア)からの声を、当会の受け止め、若者につなげていく仕組みづくり		自主事業として、地域ニーズを汲んだワークキャンプの事業構想を実施。R6年度からプログラムの実施。
	4. (再掲)コーディネーターコミュニティ(とちぎ若者未来創造会議)のメンバーの拡充、機能化		とちぎ若者未来創造会議の始動。12機関18人で構成。

③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり

■“ソーシャルインパクト”のための“共創”機会の創出の検討

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)	2024.4現在
◇ソーシャルデザインイニシアティブプログラム(仮)の実施	“信じ切れる次の社会の姿と具体的アプローチを本気で描く”ソーシャルデザインイニシアティブプログラム(SDI,仮)の実施	年1回の開催 参加機関の新たな事業創出、他機関との連携、社会施策化、実践表彰等、5件創出(0件)	ソーシャルデザインイニシアティブプログラムとしての動きはできなかったものの、みやふろ、デジハブ、など多様な機関・所属が重なり活動支援
	Slack等での日常的コミュニケーションコミュニティの形成(日常的な議論やアイデア・資源の情報交換等)	SDI slackコミュニティ構成人数100人(0人)	未実施

- ①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実（若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用）
- ②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデルの確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。
- ③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり

ミッション
若者の力を活かして、地域の活性化/課題解決を加速する

未来の景色(ビジョン)
それぞれの強みや違いを活かし、繋がりが合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会の実現

2023年度重点

2024年度重点

- 2
- 〈社会的仕組み〉
- ・とちぎデジタルハブ
 - ・地域の人事部
 - ・西地区地域支え合い活動
 - ・リカレント教育
 - ・うつのみや創造プロジェクト
 - ・OPEN SESSION FRIDAY
- 〈組織づくり〉
- ・宇都宮市創造都市研究センター
 - ・宇都宮空き家会議
 - ・とちぎグリーンツーリズム・ネットワーク
 - ・宇都宮市イノベーションコンソーシアム
- 〈新たなコーディネート機関・人材の育成〉

- 社会変革への挑戦
- 行動化・プロジェクト化支援
- 自信と自己有用感
- 地域参加提案・促進
- 他者と繋がる安心感、面白さ
- 若者の掘り起こし

3

新たな社会への仕組み、価値観、事業を通じた社会変容=ソーシャルインパクト

本気で次の社会のあるべき姿とそのための仕組み・仕掛けを描く「ソーシャルデザインイニシアティブ」

挑戦を続ける若者

新たな力、変化を必要としている現場へ

若者と地域のコーディネート

- ・挑戦者の願いの実現に向けた伴走支援、支援者開拓
- ・iDEA→NEXT
- ・実践型インターンシップ
- ・地域づくり担い手事業(県)
- ・Work Trip
- ・ワークキャンプ
- ・地域づくりフェア

とちぎ若者未来創造会議
※県内若者支援・地域づくり系機関との協働プラットフォーム(プログラム開発・運営、掘り起こし広報、地域との接点づくり)

- ・あしかもメディア
- ・高校、大学での講義
- ・アントレプレナー教育

3

次の社会を創る若者・支援者コミュニティ slack

- 若者からの相談
- 地域からの相談
- ユース事務局からの相談
- 事業連携の相談
- 事務局の支援成果の発信
- 交流機会の案内

ユースチャレンジ基金

栃木県若者白書(仮)

1

支援者成果の可視化

- ・HP,SNSの充実
- ・

社会的機運醸成、政策提言等メディアの積極的活用

支援者の掘り起こし

- ・個人会員(運営、賛助)
- ・メンター
- ・賛助団体(年間5万円～)
- ・マンスリーサポーター

地域ニーズ・願いの把握

若者コミュニティ

内部体制の強化

地域に関心はある。何をすればいいかわからず動けない。

社会的仕組み、組織づくり支援(開発、運営支援)

若者の挑戦支援・育成

地域の願いの把握

支援環境の整備

2024年度事業計画

2024年の重点実施方針 “若者の地域参画の推進”“ソーシャルプロジェクト支援の推進”“内部体制の整備・強化”

●若者の地域参画の推進

若者とのコミュニティ形成、各支援機関とのネットワーク形成(未来創造会議、NPO合宿、会員交流会)を実施してきた2023年度。しかしながら、地域社会からの要請(課題)などと若者とが接続されるコーディネート事例が少なかった。今年度は、若者たちを地域に送り出し、若者自身が地域の人と共に汗をかき、育たれ、地域の風景を変えていく支援に注力していく。またそれらを可能にするためにスタッフの地域人材ネットワーク(相談される、相談できる人材)の構築にも注力する。また若者たちが地域で活動している姿を若者、社会に届けていくレポートの掲載をしっかりと対応する(HPで掲載)

▷ワークキャンプの実施(年4回)、若者の地域プロジェクトへの参画・NPOインターン等(20件)、新たな若者の参画(50名)、レポート掲載件数(30件)

●ソーシャルプロジェクト支援の推進

社会課題解決に挑む個人・団体の支援に加え、社会の仕組みの転換に向けた取り組みも推進する。

▷iDEA→NEXT他インキュベーションプログラム修了後の団体支援を、当会職員だけでなく、会員支援者、外部資金等の力を借りて、継続的に支援する(年間団体)。休眠預金活用助成の準備・申請。活動支援基金の検討の実施。

●内部体制の整備・強化

認定NPO法人化を見据えて、安定的な支援者(毎年100名)と法令順守はもちろんのこと広く社会的信用に耐えうるマネジメント体制を整備する。また、近年、若者支援だけでなく、社会システム開発・運営の比重も高まり、若者が活躍し、また参加型地域課題解決を進めていく仕組みづくりを行える内部体制(事業部制)を検討準備する。

▷内部規定の整備、事業部制の承認(次年度反映)、委託業務単価設定、会員・支援者への報告連絡の徹底、個々のスタッフが有するネットワーク等内部資源の可視化・共有化、マンスリーサポーター(50名、現在9名)の獲得。YOUTHTIME/ユース事業報告会の開催

事業の種類(定款)	事業群	事業内容 (事業パートナー)	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額
①社会事業を行う人材育成事業	実践型インターンシップ事業	長期実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」【継続、独自】 1日企業訪問プログラム「work trip」 2種類を企業の要望に応じて実施	通年	栃木県内	3名	栃木県内、首都圏の大学生、若手社会人20名程度	490
		うつのみや社長留学【新規】(宇都宮市産業政策課) ベンチャー経営者の社長のかばん持ち体験を通した起業家精神醸成事業	通年	宇都宮市内	2名	栃木県在住または通学する大学生10名程度	1,100
	起業・創業ネットワーク事業	若者の社会をよくするスタートアッププログラム「IDEA→NEXT」【継続、独自】 社会をよくするアイデアを持った若者たちの行動化、継続化の支えるインキュベトプログラム。	通年	栃木県内	6名	栃木県内の学生及び若手社会人6団体程度	5
	若者人材育成	地域づくり担い手育成事業【継続】(栃木県地域振興課) ①担い手育成プログラム: 地域づくりに関心を持つ若者等による県内の地域活動参画及び定着に向けたプログラム運営。 ②担い手支援プログラム: 地域づくり団体の立ち上げから安定的な運営に役立つ手法や先行事例を学ぶ研修型プログラム企画運営	通年	栃木県内	3名	栃木県内の学生及び若手社会人、地域づくり団体構成員160名程度	2,000
		宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」【継続】(宇都宮大学) 地域リーダーとしての素養を育む社会人向け講座企画運営	通年	宇都宮大学	3名	栃木県在住または通勤する社会人40名程度	2,200
		宇大未来塾「次世代経営マネジメントプログラム」【継続】(宇都宮大学) 次世代の経営人材・社内リーダー育成プログラム	通年	宇都宮大学	2名	栃木県在住または通勤する社会人及び経営者20名程度	2,200
		宇大スタートアップエコシステム【新規】(宇都宮大学) 宇都宮大学の学生、教員のアントレプレナーシップ醸成と行動化の一步目を目的に、自ら無いものをつくろうとすることへの難しさを外し、「身近」で「楽しそう」と一歩踏み出しやすいプログラム	通年	宇都宮大学	2名	宇都宮大学学生、教員	800
		宇大未来塾「データサイエンス経営プログラム」【新規】(宇都宮大学) 地域社会のリーダーを養成する宇大未来塾に、データサイエンスと経営をテーマにした新しい新コースを創設し、プログラムの開発、運営を実施	通年	宇都宮大学	2名	宇都宮大学学生	1,100
		下野市公民連携推進事業【継続】(下野市) 下野市全体をキャンパスに、『シモツケ大学』や公共空間の利活用社会実験「にぎわい広場実験室(にぎらぼ)」を通してまちと人をつなげる場づくりを実施。	通年	下野市内	1名	下野市内在住者500名程度	4,400
ミライチャレンジプロジェクト【新規】(栃木県県民協働推進課) 地域活動に関心のある若者のプロジェクトの伴走支援プログラム		通年	栃木県内	2名	栃木県在住または通学する大学生30名程度	2,161	

事業の種類(定款)	事業群	事業内容 (事業パートナー)	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額
①社会事業を行う人材育成事業	若者人材育成	星の杜中学校・高校学習支援コーディネート事業【継続】(星の杜中学・高等学校) 大学生が支援者となり、中学生、高校生への学習支援を通じたロールモデルや斜めの関係構築を実施。	通年	星の杜高校	1名	栃木県内に在住または通学する大学生20名程度	208
		まちなか大学【継続】(宇都宮市創造都市研究センター) 市内大学と連携し、大学の研究・授業内容を社会人にも提供し、学び直しを進めていく。	通年	宇都宮市内	1名	栃木県内在住または通勤する社会人40名程度	350
		たかはらインターンシップ【新規】(とちぎボランティアネットワーク) 栃木県内の子どもの健全な成長に寄与する団体への学生向け長期インターンシップの企画運営	5月～3月	栃木県内	2名	栃木県在住または在学する大学生10名程度	200
		とちぎ若者未来創造会議事務局【新規】(とちぎ若者未来創造会議) 社会を見据え一歩を踏み出せる若者を育成するための協議会組織の運営事務局	通年	栃木県内	3名	栃木県内に在住・在学する大学生40名程度	100
		若者コミュニティよりも【継続】(自主事業) 若者が新しいことにチャレンジするためのコミュニティ運営事務局	通年	栃木県内	2名	栃木県内の25歳以下の若者20名程度	100
		とちぎユースワークキャンプ【新規】(自主事業) 地域課題解決現場への短期的な活動参加を通して課題解決意識醸成を図る体験プログラム	通年	栃木県内	4名	栃木県内に在住・在学、在勤する18歳から29歳15名程度	

事業の種類(定款)	事業群	事業内容 (事業パートナー)	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額
②ソーシャルプロジェクト支援事業	ソーシャルプロジェクト支援	グリーンツーリズムネットワーク支援事業【継続】(栃木県農村振興課) 栃木県内でグリーンツーリズムを実践する団体で構成されるネットワーク組織事務局運営	通年	栃木県内	1名	栃木県のグリーンツーリズム実践団体150組程度	1,300
		農村ファンと地域をつなぐ未来創出事業【新規】(栃木県農村振興課) 中山間地の活性化に向けた活動に参画する人材の掘り起こしを図る	通年	栃木県内	3名	地域づくり関心層、TUNAGU会員など50名程度	3,978
		とちぎデジタルハブコーディネート事業【継続】(栃木県デジタル戦略課) 県内の地域課題を住民がホームページに課題投稿し、その課題をデジタルの力を使い個人や企業が協働して解決に導いていく事業	通年	栃木県内	3名	栃木県ない在住者、IT事業関係者150名程度	13,036
		西地区支え合い活動【継続、独自】(西地区ひまわり協議体(第二層協議体)) 地域の中学生、高校生を担い手として、高齢化、孤立化している地域住民の暮らしのお困りごと解決を実施	通年	宇都宮市内	1名	宇都宮市内の高校生及び中学生	40
		宇都宮市移住定住相談窓口支援【継続】(ふるさと回帰支援センター) 宇都宮市の移住検討している単身者、家族に向けて、地域との関りや仲間と出会える関係構築プログラムの実施。	通年	宇都宮市内	3名	宇都宮市への移住検討者30名程度	2,300
		ユースハウス【継続、独自】 地域と若者が関わる日常を創る拠点。シェアハウス機能と他NPOの活動拠点として活用	通年	宇都宮市内	1名	ユースハウス入居者及び利用団体3組程度	495
		aret管理運営【継続】(光琳寺) コワーキングスペースaretの管理運営を行い、新たな挑戦を支える。	通年	宇都宮市内	5名		840
		うつのみや創造プロジェクト「みやプロ」伴走支援【継続】(宇都宮市政策審議室) U39での行政、民間と、地域の課題や施策を創る枠組みと支援策の開発運営。	通年	宇都宮市内	2名	宇都宮市内在住または通勤する若手社会人40名程度	2,500
		共創ラボ【新規】(宇都宮市総合政策審議室) 共創による課題解決・価値創造を図る交流とプログラム企画運営	通年	宇都宮市内	2名	宇都宮市に在住、通勤通学する者50名程度	3,000
		休眠預金を活用したソーシャルプロジェクトチーム支援の準備と検討	6月～7月	栃木県内	3名	IDEANEXT卒業生他、	0

事業の種類(定款)	事業群	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額
⑥社会事業に関する相談/アドバイス事業	社会事業に関する相談/アドバイス事業	宇都宮ベンチャーズ創業相談窓口業務【継続】 起業準備者に対して、実現に向けたアドバイスの実施 パートナー:宇都宮ベンチャーズ	毎月1回	宇都宮ベンチャーズ	1名	宇都宮での創業希望者に対し随時対応	259
⑧情報発信事業	情報発信事業	あしかもメディア【継続、独自】 若者と地域の魅力的なヒト・モノ・コト・シゴトを繋げるオウンドメディア。 学生、若手社会人もインターン生として活躍	通年	栃木県内	2名	大学生及び若手社会人500人程度	792
		会報、レポート制作業務【継続】 外部プロジェクトのレポート記事の作成 パートナー:宇都宮空き家会議、宇都宮大学ニューフロンティアプログラム	随時	栃木県内	1名		430
		情報発信 <WEB> A: HP B: あしかもメディア C: メルマガ <SNS> E: Facebook F: twitter(ユース) G: twitter(あしかも) H: LINE公式 I: Instagram(あしかも)	通年	全国	6名		
		取材・新聞掲載等	通年	栃木県内	5名		